

平成26年度 学校評価実施報告書

後期

学校名(京都市立梅津中学校)

・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定					・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価	学校関係者評価			
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	分析(成果と課題)	自己評価に対する改善策	評価日	評価者・組織	評価日	評価者(いずれかに○)
1 確かな学力	授業改善によるわかる授業の創造	年3回の研究授業・めあてと振り返りの徹底・校外研修への積極的参加	アンケート(学校の授業はわかりやすい)学習確認プログラムの結果	「授業がわかりやすい」が78.4%に低下。学習確認プログラムは横ばい	⇒ 「授業がわかりやすい」が低下したのは難易度の上昇に付いてこれなくなっているからか。全体の学習成績は変わらないが2極化の傾向が現れている。宿題はやってくるが、与えられた以上のこととは出来ない現状がある。ペル着はするが、頑張れない。	年度当初、入学式・参観・家庭訪問などの機会に家庭学習の習慣作りを訴える。「家庭学習の進め」冊子は更に充実したものとして配布する。「授業を頑張れる」のも今求められる学力の一つで、生徒が身につけるべき学力を伸ばす授業研究を進める	地域や家庭の教育への関心を高める取り組みの必要性がある。また、小中が連携し、中学校卒業時の進路まで見通した9年間を見通した取り組みが必要。	今年度発足した学校運営協議会として、今年度の総括をもとに、次年度必要な取組を検討段階から積極的に関わる。とくに地域への様々な発信の中心となる。		
	家庭学習の習慣化	家庭学習のしおりを作成し家庭訪問で配布と説明・各通信類で啓発	アンケート(宿題はできている・家庭学習には毎日取り組んでいる)	宿題の提出率は大幅に上昇。家庭学習に取り組めない状況は変わった						
	授業規範の確立	校内巡回体制の強化・授業の規律10箇条の作成と徹底・生徒会の取組	ペル着や授業改善への取組結果・アンケート(学校のルール守って)	遅刻・ペル着違反は減っている。苦手や難しい問題に取り組めない						
2 豊かな心	いじめが起きない学級集団づくり	年度当初の学級経営理論研修・いじめ防止基本方針の周知	アンケート(いじめはいけない・悪いことは悪いといえる)	いじめはどんなことがあってもいけないと言う回答が100%にならない	⇒ 今年度特に力を入れた学級づくりは上手くいき、最後まで継続できた。担任の力量の上昇と共に生徒も育ち、崩壊するクラスはなかった。おかげで今年度いじめは「0」だった。しかし、人間関係づくりの苦手な生徒も多く、丁寧で粘り強い指導が必要	いじめ防止については安心せず、アンケート結果や日々の生徒観察により未然に防がなくてはいけない。生徒指導の観点から3年間の行事を見直す。無理にキャラづくりをした関係ではなく、本当の自分を出し、心から信赖し合える集団を目指す。	朝読書の有用性を再確認すべき。生きやすい図書室への工夫が必要。「死ね」「殺すぞ」などの言葉を日常的に使用する子どもへの厳しき粘り強い指導が必要。	今年度発足した学校運営協議会として、今年度の総括をもとに、次年度必要な取組を検討段階から積極的に関わる。とくに地域への様々な発信の中心となる。		
	「いいことばの日」への理解と定着	毎月15日の生徒会の呼びかけとそれに呼応する担任の働きかけ	終学活の振り返り・アンケート(友達は優しい言葉をかけてくれる)	生徒会の取組への理解は高い。学校へ安心して登校している生徒						
3 健やかな体	道徳教育の充実	「ひつだけの花」の取り組み・全校道徳をはじめとする道徳授業の充実	道徳学習シートの点検・アンケート(自分にはいいところがある)	道徳の自己評価は常に高い。道徳的観点のアンケートはすべて上	⇒ 基本的な生活習慣が身についていない生徒が多く、各家庭への啓発が必要だが、それが難しい。体を動かした遊びの経験が乏しい。その場所もない。	年度当初、入学式・参観・家庭訪問などの機会に基本的生活習慣の重要性を訴える。とくに朝食抜きの生徒を「0」にする。生徒への保健指導もさらに重視する	遊び場所の不足、また公園は多様な年齢の子どもとの共用の観点から禁止事項は増える。家庭の教育への関心を高める取り組みの必要性がある	今年度発足した学校運営協議会として、今年度の総括をもとに、次年度必要な取組を検討段階から積極的に関わる。とくに地域への様々な発信の中心となる。		
	基本的生活習慣の確立	生活習慣アンケート・早寝早起き朝ごはんの取り組み・保護者への啓発	アンケート(朝食は毎日とする)・就寝時間と起床時間調査	起床時間が不規則が10%弱。朝食を全くとらない生徒が6.7%。						
	体力・運動能力の向上	体育授業の充実・部活動指導の充実と支援体制づくり	体育授業の評価	課題が多い。体育系部活に入っていない生徒は学校以外で全く運動						
4 独自の取組	小中一貫教育の推進	小中の係会・小中3校校長会・小中合同の研究授業と協議	小中合同研修会後の職員アンケート・校下2小の校長からの意見	小中ともに合同研修会後のアンケートでは前向きな意見ばかり。	⇒ 小中で9年間の義務教育に責任を持つ意識は高まり、互いの研修会に自由に参加するなど、垣根はなくなっている。研究主任同士の連携もすすでおり、次年度は実践を始めることが出来る。	授業に関する掲示物の共通化し、中学校入学のギャップを減らす。小学校2校で行っている算数・国語の検定を中学校でも導入する。協同学習の要素を取り入れた新しい授業形態を共通で実践する。	「いいことばの日」の取組を梅津地域全体へ広げることはできないか。結果的に梅津中学校への愛校心にも繋がる。小中だけでなく幼稚園や児童館とも連携が必要。地域も含めた大人みんなで子どもを育てる意識が必要	今年度発足した学校運営協議会として、今年度の総括をもとに、次年度必要な取組を検討段階から積極的に関わる。とくに地域への様々な発信の中心となる。		
	愛校心の育成	集会での話の内容の工夫・梅津の志の唱和・校歌を歌う機会を増やす	アンケート(梅津中を誇りに思う・他の学校とは違う特色がある)	梅津中学校を誇りに思う生徒が2.3ポイント増加。						
	情報発信の充実	積極的なホームページの更新と内容の充実・ホームページの活用	学校ホームページのアクセス数	一日平均90回程度のアクセス数。若干アクセス数は増えている。						

総括・次年度の課題

- ・様々な取組や行事を生徒指導面から理論付けすることにより、目標や目指す方向がはっきりし、心の面は育ってきている。ただし取組や行事が多くなっており、内容は充実しながらも時間の削減や、精選も検討しなくてはいけない。
- ・家庭での自主的な学習(予習・復習を含め)が全く足りていない。中学校だけからの働きかけでは改善されない。この面も小中連携し、家庭や地域に働きかける必要がある。
- ・朝食をとるなど、基本的な生活習慣つくりに、小中だけでなく幼稚園・児童館が連携し、その上で地域や家庭と協力していきたい。まずは100%朝食をとらせたい。
- ・今求められている「学力」は何か。ここから再確認し、その力をつける授業へと改善しなくてはいけない。協同学習の研究を進め、梅津学区にふさわしい形で取り入れたい。
- ・「いいことばの日」の地域への展開が期待されている。地生連や地域の諸団体とも連携したい。